

小杉地区

(富山県射水市)

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 228ha
- 交付対象事業費 751百万円
- 市人口 91,458人

ポイント 小杉ファンに応えるまちづくりの実践
「地域で支えあい、交流を促す仕掛けづくり」

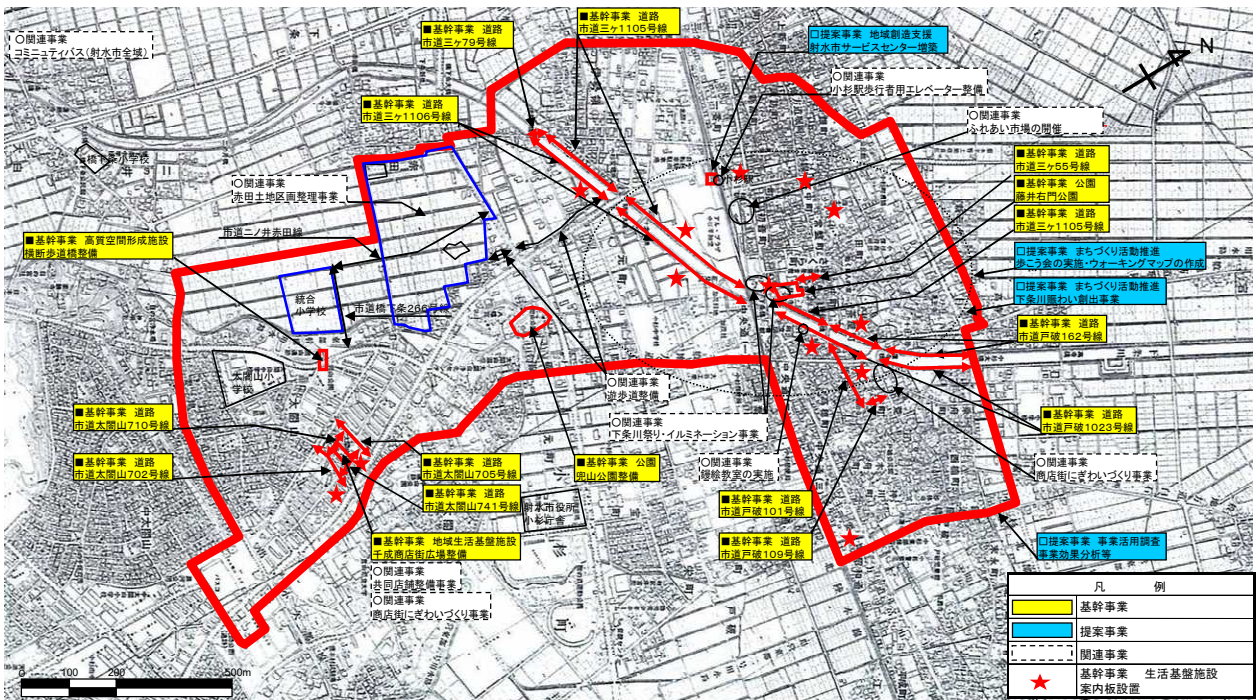
地区概要 公園・道路整備（基幹事業）や共同店舗整備事業（関連事業）と一体的に、桜まつり等の下条川賑わい創出（提案事業）を絡めることにより、交流拠点を形成し、街中の賑わい再生を図る。

目標 人口定着・交流機能強化による市民の交流拠点の形成と賑わいの再生。

指標 生活拠点の場が整備されることにより、市民のみならず来街者が交流すると考えられる資源、施設、イベントに来院する人数を指標として、地区内の魅力を確認する。

通りの歩行者	100人/日 (H16)	→	120人/日 (H21)
観光客入込	14,742人/年 (H16)	→	15,480人/年 (H21)
地区内居住人口	8,794人 (H16)	→	8,800人 (H21)

事業内容 基幹事業（671百万円） → 道路（幅員3m～11m、延長3,770m）、公園（2カ所、7,600㎡）、商店街広場整備（1カ所、630㎡）、横断歩道橋（幅員3m、延長30m）
提案事業（80百万円） → 射水市サービスセンター増築（RC2階建42㎡）、歩こう会の実施（ウォーキングマップ作成）、下条川賑わい創出事業（ボンボリ設置、鏝絵展示）、事業活用調査



地区の現況と課題

1. 年間70万人が訪れる「県民公園太閤山ランド」への来場者を中心市街地に引き付けるため魅力ある施設整備を進め、来街者を街なかに誘導する仕掛け作りを行い、地域振興の核を育てる。
2. 地区北部の旧道周辺において、固有の歴史・文化資源の知名度が低いPRをするとともに、それらを活用した回遊ルートを整備し、交流ゾーンを形成する。



▲ 下条川の桜並木

提案事業の特徴

射水市サービスセンターの増築

現在、小杉駅南口にある射水市サービスセンターと駅通路のバリアフリー化として、エレベーターを設置する。併せて、サービスセンターを増築することにより、市の情報発信の拠点としての充実を図り、市民によるイベント案内等を行う。

歩こう会の実施とウォーキングマップの作成

年4回程度の歩こう会を実施し、そのメンバーにより、コース設定や施設整備に対する意見を聞き取り、基幹事業である案内板設置や下条川散策路整備を行う。また、最終年度には歩こう会で集約された意見を基にウォーキングマップを作成する。

下条川賑わい創出事業

初年度には桜並木の下条川散策路に「ボンボリ」を設置し、夜間でも散策できる雰囲気演出する。次年度には、桜満開期間に併せ「桜まつり」を開催し、地域交流の場を創出する。

その後、人の動向をみながら春、夏、秋と下条川周辺商店街にプランターを設置し、「花いっぱい運動」を実施する。また、桜まつりに合わせ「饅絵の展示会」を開催する。



▲ 整備前の商店街広場



▲ 整備後の商店街広場

計画策定プロセス

中心市街地活性化基本計画

中心市街地活性化基本計画では、小杉地区の創造性あふれる生活拠点、新たな交流の場としての地域活性化推進プランの施策を示しており、この計画に基づき本計画を策定した。

小杉地区商業タウンマネジメント機関（TMO）

地元商工会を中心に発足した TMO では、「こ〜りやくしよう、まちづくり」と題し、様々な事業を計画している。この中で都市再生整備計画では、「1. 中心商店街店舗等共同化事業」「2. 中心商店街歩行者ネットワーク形成事業」「3. 中心商店街コミュニティ創造事業」に着目・連携し、提案事業を策定した。（「こ〜りやく」とは、方言で「協力。加勢。助力」の意）



▲ サービスセンターに設置したエレベーター

▼ TMO 活動を紹介した記事



▼ 饅絵看板



▲ 各店の饅絵看板の展示